

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2125 号

The “replacement growth pattern” represents aggressive invasive behavior in liver metastasis of pancreatic cancer

(Replacement Growth Pattern は膵がん肝転移において予後不良の指標となる)

渡邊 一雄 (わたなべ かずお)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、膵がん肝転移における Replacement Growth Pattern (RGP) の予後因子としての重要性とその形態学的特徴を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

膵がん肝転移切除検体を用いて、GP の均一性を評価し、さらに膵がん肝生検検体を用いて RGP の形態学的特徴の解析と予後因子としての意義を評価した。

RGP は膵がん肝転移の約 50% に認める独立した予後不良因子であり、高い均一性を示し、針生検においても評価可能であることが示された。進行膵がんにおいては日常診療の範囲内で利用可能な確立された予後因子は少なく、本研究において、進行膵がんにおける組織レベルでの予後予測モデルが確立されたことは、患者マネージメントに有用であると考えられる。さらに、RGP に特徴づけられる、乏しい腫瘍間質や介在炎症細胞浸潤を認めないことは進行膵がんの予後不良を説明する微小環境の部分像と考えられ、これらの微小環境をターゲットとした治療開発の重要な足掛かりとなることが期待され、意義のあるものとする。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。